

ホテル続々開業

江田島観光 新たな船出

絶景体験イベントで集客

青く輝く海に囲まれた江田島市の観光が、相次ぐホテル建設で勢いを増しそうだ。1日に市内最大規模の民間ホテル「江田島荘」が、能美町の長瀬海岸にオープン。3月には江田島町の海上自衛隊第1術科学校近くに「ホテルご安航」が営業を始めた。沖美町にある市所有の宿泊施設「ウミノス スパ&リゾート」(サンビーチおきみ、2019年リニューアル)と合わせ、エリアや特色の違う三つのホテルがそれぞれの魅力を発信する。今春に一般社団法人化した市観光協会は、旅行業参入を準備。新型コロナウイルス収束後を見据え、宿泊とセットの体験型ツアー開発に力を入れる。(備信一)

ホテルご安航



左側の「ホテルご安航」は、能美町の長瀬海岸にオープンした。右側の「ウミノス スパ&リゾート」は、沖美町のサンビーチおきみにある。

ウミノス スパ&リゾート



海と山に囲まれた立地が魅力。入鹿海水浴場に接している。



地域の観光振興へ期待がかかる新ホテル。右手の平屋の建物が温泉施設。(撮影・高橋洋史)



巨大な円筒の和紙アートが目を引く1階ラウンジ

入鹿海水浴場に面した「ウミノス スパ&リゾート」は、多彩なマリンスポーツが体験できるのが最大の魅力。シーサーやスタンドアツパドルボード(SUP)、カヌーのほか、ボートの波にサーフボードに乗るウエイクサーフィンの道場もレンタルする。宮島(日田市)などを巡るクルージングも近く始める。

客室は13。多島美を眺めながらの食事や展望浴場も自慢だ。いけすを泳ぐアゴやタコなどの海のランチコースの定番ともなっている。下階スタッフ(40)は「海と山の自然に囲まれた中で、それぞれの楽しみを見つけてほしい」と話す。

全国から見学者が訪れる海自第1術科学校に近い「ホテルご安航」は、旧江田島幼稚園の園舎を地元の建設会社が改修し、生まれ変わった。運営会社の越智明彦氏は「地元商店街がにぎわうように」と、20ある客室をあえて茶泊まりの営業形態にした。

食事は周辺の飲食店を利用してもらうほか、庭でのバーベキューも提案。セットを申し出し、近くの店へ手に入る食材や、釣った魚を自由にお使いしてもらおうと意向だ。ホテルが管理する農園では、レモンやハッサクの収穫も体験できる。

第1術科学校の協力で、校内での朝礼を見学するツアーも宿泊客向けに予定している。越智社長は「さまざまな島の魅力を体験できる拠点にしたい」と力を込める。

「江田島荘」は、市が観光振興の中核施設とするため、5億円の補助金を出して東京の事業者を誘致した。鉄骨4階建て、延べ約700平方メートルの客室があり、滞り内の船着き・別棟を設けた天然温泉、カキや野菜の新鮮な地元食材を使った料理をアピールする。

ロビーやラウンジを飾る和紙のアート作品は、国際的に活躍する和紙アーティストの堀木エリちゃんが手掛けた。全客室で大きなガラス窓越しに、波間に浮かぶ船の姿が眺められる。壁の一部には、島内の工場で織られた紙布を使用。サイクリング客用に、自転車置き場も用意する。今後、カキ打ちやマリンスポーツなど季節ごとの体験イベントを計画する。

従業員は新規に4人を採用。阿部直樹総支配人(30)は「江田島を愛する人ばかり。施設もスタッフも日々成長し、真心でもてなしたい」と抱負を語る。

△江田島市の観光客の統計は、2019年の観光客数は約52万人で、ピークだった05年の約71万人から減少傾向が続き、宿泊は約2万4千人、5万3千人が訪れた海自第1術科学校には、海軍兵学校時代の建物が残り、関連資料を展示する教育参考館がある。レストランやショップを備えた江田島オーリーブフックトリ、国立江田島青少年交流の家なども人気観光スポットが整備されており、主要な海水浴場は三つある。

「官民一体で魅力づくり」

市観光協会の伊藤富美雄代表理事に聞く



「江田島観光の現状をどう捉えていますか。」

海と山の自然、豊富な農水産物を魅力は上げたい。釣りやサイクリングに訪れる人は増えていて、島内の食事や買い物にあまり結びついておらず、可能性を生かしていません。滞在観光光へ促したい。

「旅行業参入の狙いは。」

一般社団法人化に伴い、ホテルや商工会関係者に理事に加わってもらった。滞在したからこその魅力がある。開発に、一九九〇年に取り組み、見学者の多い海上自衛隊施設とも連携を深め、普段は入れない訓練室で船の模擬操縦を体験できるツアーを秋にも始める予定です。

「体験型、滞在型がキーワードのようですね。」

カキ打ちや農作物の収穫体験、マリンスポーツなどコンテンツはそろっている。若者や移住者などによる魅力ある飲食店も増え、個々の魅力を活かしながら、ゆったり島を満喫できる掛けを伸ばしたい。

「発信力の強化も求められます。」

観光客が常に新しい情報を確認できるよ、ホームページや会員制交流サイト(SNS)での発信を充実させる。農水産物や土産物を販売する振興施設の計画も市が進めており、新たな魅力づくりに官民一体で取り組む。

地域の活性化につながる観光の魅力発信へ、住民グループも動く。日露戦争前にロシアのバルチック艦隊の侵入を防ぐために築かれた江田島市沖美町の三高山砲台跡では、地元住民でつくる「砲台山に桜を植える会」が周辺整備に取り組んでいる。

砲台完成120年を記念し、4月初めに跡

砲台山に桜を植える会

地周辺で桜30本を植樹した。登山道などにも植える計画で、「桜の名所」と意気込む。毎月第2土曜日、清掃活動しながら野外カフェも開いて交流。市外の10家族を含む30人以上が活動に参加している。

そばには広島市内や宮島が見渡せる展望台があり、アクセス道はサイクリングのヒルクライム(登坂)ルートとしても知られる。

住民が地域資源磨く



眺望を妨げる周辺の木の伐採に取り組み、道案内の看板設置も目指す。事務局を務める市地域おこし協力隊員の塚田忠則さん(60)は「砲台跡は戦争の歴史に触れられる場で、当時の土木建築としても貴重。平和学習で広島を訪れる人にも立ち寄ってもらいたい」と願う。

砲台山の遺構に訪れる住民グループのメンバー